

夢追い人

今年、創業九十六年
を迎える高口仏壇店。
その四代目である高口
利文さんに、今日はお話を伺
いました。

新品同様へ再生

現在は仏壇の製造・販売よ
りも仏壇の再生を主とされて
いる高口仏壇店。仏壇の再生
とは、どのような作業を行つ
ていくのでしょうか？

「お客様のところにある仏壇
も五十年ほど経つと、金その
ものは変色しませんが、線香
などの煙によつて表面にヤニ
がつきます。そのヤニが漆や
金のかがやきをなくしてしま
う原因ですね。他にも彫刻が
取れているなどの破損があり
ますので、一度ご自宅までお
伺いして、すべてをお預かり
します。それから漆を塗り直
して、金箔も貼り直すとい
う作業なので、新品を作る時と
ほとんど同じ作業をしていま
すね。だから新品のように見
えると思います。また昔なが
らの金仏壇専門で再生を行つ
ています。唐木仏壇 黒檀な
どの金を使用していない仏壇

高口仏壇店

利文さん

「お客様には大体三ヶ月程度の期間を見ていたいまでの期間や金箔を貼つて乾くまでの期間や金箔を貼つて乾くまでの期間を見ていました。漆を塗つて乾くまでの時間もかかることがあります。また父と二人、すべて手作業で行つているので、一度にたくさんの中身を受けるのも難しいですね」

再生予定の仏壇を預かってから、崩せるギリギリまでバラバラにする」と話された高口さん。「金具や彫刻など小さいものでもすべてバラします」とのこと。

「仏壇をバラバラにするのも組み直すのも経験がものを言ふのでお受け出来かねる状況ですね」

では、一つの仏壇の再生にはどれくらいの時間が必要なのでしょうか。

「に関しては、再生方法が異なるのでお受け出来かねる状況ですね」

ります。写真も撮つた上で作業しますが、経験があれば大体どのあたりの部品というのはわかります。やはり再生を行うにも新しいものを作れる技術がないとできないですね。仏壇の再生を行うことができるので、長年仏壇を作つてきたという経緯があるからだと思います。

また新品を購入される場合と再生をお願いする場合、金額的にも大きな違いがあるのでしょうか。

「予算としては新品で購入したときの半額くらいでお願いしています。物や金額によっては新しいものを購入したほうが安く済むこともあります。親が購入したのだつたり、代々引き継いできたものだから簡単に買い換えることはできないので再生をお願いされる方もいらっしゃいますね」



仏壇を取り巻く現状

普段から仏間などに置いて
いる仏壇ですが、どのタイミング
でお手入れをしていけば
より良い状態を保てるのかも
お伺いしました。

「定期的に良いタイミングで
手入れをしていけば、百年以
上は持ちますね。放つたらか
しにしていると木も腐つてい
きますし、大体四〇年くらい
経つと鉄などの金具に錆びが
出できます。手入れをされる
のであれば、それくらいのタ
イミングでしてもらえるとよ
り長持ちしますね」

日々の手入れもするに越
たことはないが、非常に注意



漆塗り作業

以前は現在の家庭環境にあつた小さい仏壇を作ろうと思つて行動していましたが、新しく仏壇を作るにあたつての職人がなかなかおらず、やむを得ず中止することになりました。うちは仏壇に必要な部品を仕入れてから、漆や金箔で仕上げて販売しています。その部品ごと、例えは彫刻を作る職人、宮殿を作る職人、金具を作る職人などがありますが、どこもその職人が減つてきてています。大川だと宮殿を作れる職人も辞められましたし、仏壇の産地でも何名かしか職人がいない、また職人も高齢の方が大変多いです。全国的にも減つてきていますが、大川市内でも仏壇の製造がで

して取り扱わなければならぬと話された高口さん。金仮壇の場合は、漆や金箔を使用しているので特に注意しなければならないそうです。

「漆も普通の塗装と比べると柔らかいので傷が入りやすいですし、金箔もすごく剥がれやすいです。貼つてすぐなら手で軽く擦つただけで剥がれます。取り扱いには注意を払わなければいけませんが、塗装の金と本物の金箔を並べると一目瞭然ですね。塗装だけを見ると綺麗だなと思いつますが、金箔を横に並べるとやつぱり全然違います」

仮壇の再生以外にも、新しい仮壇の製造も行っている高口仮壇店。しかし最近はそれも難しくなってきているとのこと。

きる事業所で、後継者がいるところは数える程度ですね」

最後の砦になるために

二十三歳で大川へ戻つてこられて、それから家業に携わり始めたと話された高口さんもとより家業を継ぐつもりでいたそうです。

「大川に戻るまでは全く違うことをやつっていましたので、覚えることはたくさんありました。仏壇職人の塗りは五年でやつと一人前と言われます。最初の頃は言われた通りに作業していった状態で、ある程度作業を覚えたのは三、四年過ぎた頃ですね。そこからはまた別の段階で、漆を塗る金箔を貼るという作業を極めていくことになりました。漆を塗つた感覚で厚みなどを把握していくことは、やはり経験を積まないとわからないでですね。今でも日々修行だと思っています。自分の感覚を頼りに、最善に近づけるよう作業しています。もしかして、薄かつたかなと思つたときは、見た目にも出てきてしまいますね。一〇年を超えてから自分がを目指している塗り方に近付けるようになれました」

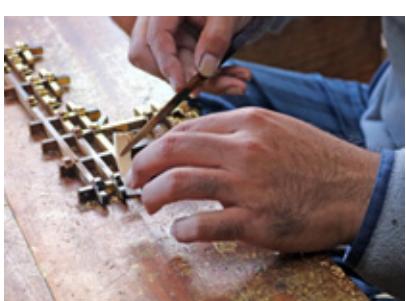
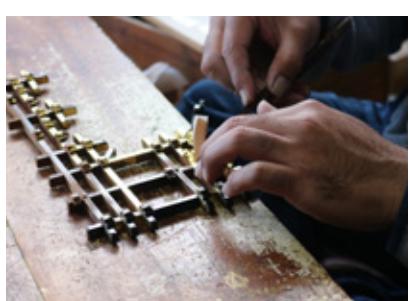
漆を塗り終え完全に乾いてから、今度は金箔を貼る作業に入られるとのことです。

「金箔 자체は平均〇・一ミクロンで、取り扱うときは無意識のうちに息を止めいでたり違う方向を見て息をしたりなどしています。特に神経を使わなければなりませんね。金箔の

では、高口さんの夢とはどんなものでしようか？「業界が不安ななかで、職人がどんどんいなくなつていつても、うちだけでも最後まで残つていたいですね。仏壇の漆を塗り替えたいけど頼むところがないとならないよう、最後の砦でいられるよう続けていきたいでね」

「古い仏壇を預かって、新品同様に再生してからお返しします」といふと、うちの仏壇じゃないみたい！とびっくりされます。そういうお客様の反応を見ていると、やつていてよかつたなと思います。特にこの業界全体、どうしても先細りの業界ではあるので、こういった仏壇の再生ができる店はどんどん貴重な存在になると思います。特に大川などは昔ながらの金仏壇が残っている土地柄なので、うちのような店がなくなると新しいものを買えなくなります。だからこそ踏ん張つて、最後まで仏壇の再生をやって行きたいです」

「古い仏壇を預かって、新品も並んでいた。」
「仕事内容は楽しいし、とてもやりがいがあります」と話されました。



金箔を貼る作業